

平成30年2月NHK中央放送番組審議会

2月のNHK中央放送番組審議会は、19日(月)、NHK放送センターにおいて、14人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、経営計画における「達成状況の評価・管理」(平成29年度第3四半期・10～12月)について説明があり、続いて、「平成30年度国内放送番組編成計画」および「インターネットサービス実施計画」について説明があった。その後、シリーズ欲望の経済史～ルールが変わる時～ 第1回「時が富を生む魔術～利子の誕生～」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、3月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

(出席委員)

委員長	大日向雅美 (恵泉女学園大学学長)
副委員長	渡部 潤一 (国立天文台副台長)
委員	今井 忠 (NPO法人東京都自閉症協会理事長)
	大川 順子 (日本航空(株)代表取締役専務執行役員)
	大島 まり (東京大学大学院情報学環／生産技術研究所教授)
	鎌田 實 (諏訪中央病院名誉院長)
	佐野真理子 (主婦連合会参与)
	田中 隆之 (読売新聞東京本社執行役員論説委員長)
	出口 治明 (ライフネット生命保険(株)創業者／立命館アジア太平洋大学学長)
	永田 紗戀 (書家／花咲く書道 Studio Saren.Nagata 主宰)
	仲道 郁代 (ピアニスト)
	西原浩一郎 (金属労協顧問)
	比嘉 政浩 (全国農業協同組合中央会専務理事)
	藤村 厚夫 (スマートニュース(株)執行役員メディア事業開発担当)

(主な発言)

<経営計画における「達成状況の評価・管理」

(平成29年度第3四半期・10～12月)について>

○ 前年同期と比べ、「NHKニュース7」、午後7時半から8時台の多くの番組で総合

視聴率がやや減少するとともに、高齢層のリアルタイム視聴も落ち込みがあり、また、午後10時台の「ファミリーヒストリー」などでは高齢層の視聴が増加したとのことだった。高齢層が離れた分、午後7時半から8時台には、若い視聴者層に見られている番組もあるとのことだったので、ゴールデンタイムの視聴率だけをみると一見苦戦しているように見えるが、「所さん！大変ですよ」などの番組は新しく若い層に見てもらえているのだからいいのではないかと思う。

(NHK側)

「NHKニュース7」は高齢層の視聴率が減少していることが気になっている。さまざまな調査を行い、分析しているところだ。一方で見てほしい視聴者層にしっかり届いている番組もある。多角的な分析をし、それぞれの番組のよさを生かしてより多くの人に見てもらえるよう努めていきたい。

- NHKの総合テレビの総合視聴率がやや減少しており、民放は総合視聴率が減少している局もあれば減少していない局もあるとのことだが、テレビ離れが進んでその影響をNHKも受けているという評価なのか。NHKの視聴者層を民放にやや取られたという評価なのか。

(NHK側)

今回は第3四半期の3か月分を示しているが、月ごとにも分析している。昨年10月は総合テレビで衆議院選挙の政見放送を放送した。政見放送から通常番組に戻っても視聴習慣が戻らないことがあり、少なからずその影響もあったのではないか。11月にもまだ戻らず、12月になってやや回復した。NHKにとって第3四半期はやや特別な時期だったと受け止めている。次の第4四半期の推移に注目しようと思っている。

- NHKは、テレビで4波をもっていることから、放送の質的評価については、それぞれの波の特徴が明確に出ているかどうかについて、分析をより深めてほしい。評価指標のどの項目も高い状態をめざすのではなく、波によって違いがあっても、4波全体を総合的に見たときに、視聴者の多様な期待に応えられていることが望ましい。今後も波の役割や個性を意識した編成を心掛け、視聴者に満足していただけるような放送・サービスの充実に努めてほしい。

(NHK側)

テレビ4波については、総合的に捉えたときに多様性を確保したいと考えている。それぞれの波の特徴が明確になるように一層工夫していきたい。

- NHKにはいろいろな番組があるので、NHK全体として見たときに、それぞれの評価指標の数値が高くなっていけばいいのであって、すべての番組がすべての項目でいい評価を求めると、ありきたりで平板な番組ばかりになってしまう懸念がある。知的好奇心が強い人に向けた難しい番組だと割り切ったようなのがあった番組があってもいいのではないか。

<「平成30年度国内放送番組編成計画」

および「インターネットサービス実施計画」について>

- この審議会でもいろいろと意見を申し上げた「平成30年度国内放送番組編集の基本計画」は、文章だけで見るとどこか総花的に感じていたが、ことばの一つ一つが具体的に番組改定という形で今回の編成計画にしっかり反映されていることがよく分かった。その姿勢は大変評価できる。一方で、NHKを含めたマスコミ各社には、長時間労働が生まれやすい環境があるのではないか。働く人たちの心身の健康への対応をできるだけきちんとして、引き続きよい番組を作っていただければと思う。

(NHK側)

「働き方改革推進委員会」などを設置し、NHKグループ全体の働き方を抜本的に見直しているところだ。働き方改革を進めて、放送業界が魅力ある業界だと思ってもらえるようにしていきたい。

<シリーズ 欲望の経済史～ルールが変わる時～

第1回「時が富を生む魔術～利子の誕生～」について>

- 「時間と空間の差異が富を生む」などさまざまな切り口で、経済史を読み解いておもしろかった。ただ、富をため込むことは罪だと信じられていた時代に、巨万の富を得た罪の意識から、メディチ家が教会に寄付をしたり、多くの芸術家たち

の活動を支援したりしたことが併せて紹介されたが、捨て子の養育を支援していたという話も聞くので、そういった社会保障の面で人々に貢献していたことも紹介したほうがよかったのではないか。また、キリスト教社会についてはわかったが、イスラム社会についても触れてほしかった。

- 歴史や宗教などさまざまな観点から経済を多角的にとらえており、興味深かった。タイトルの「欲望」ということばは、時に強欲というネガティブな意味に捉えられることもあるのだが、番組自体にも「資本主義は悪である」というようなニュアンスが含まれているように感じられ、そこは少し残念だった。欲望を喚起することは文化の発展につながっているという肯定的な側面もあると思うので、NHKは両面を客観的に見つめる必要があると思った。
- 経済史を振り返ることで、現代におけるさまざまな問題について考えさせられる意欲的な番組だった。今話題となっている仮想通貨の問題などについても考えさせられた。どの国にも人に迷惑をかけず、見返りを求めないことが人としてのあり方であるという考えがあると思う。一方で、経済の分野では、利益が優先され、その過程では見返りを求める行動が前提となっている。「見返りを求めない」のか「利益優先で見返りを求める」のか、その人の立ち位置によって、冒頭で紹介された世界の36億人分の資産がわずか8人の資産と同額という現実についても、受け止め方が変わるのではないかと思った。現代の日本には消費者金融による多重債務の問題など、利潤を追求しすぎた結果生じた問題が数多くあるので、番組では欲望をキーワードに利子が誕生する過程が紹介されたが、利益追求に伴う欲望の規制は経済史の中でどう展開されてきたのか、欲望をコントロールする知恵も紹介してもらいたいと思った。
- 「歴史は繰り返す。一度目は悲劇として、二度目は喜劇として。」というカール・マルクスのことばを冒頭で引用していたが、これは政治クーデターの話についてはなかったかと違和感を覚えた。よく取材し、国際的な視点が盛り込まれていた点は評価するが、「利子は悪」、「資本主義は悪」と捉えているように思えてやや心配になった。経済成長のプラス面にも触れてはいたが、経済の問題はイデオロギーが絡むので、バランス良く配慮し、取り上げ方には十分に注意してほしい。

(NHK側)

資本主義を否定したいというようなことではない。例えばアメリカでは、貧富の格差への不満や社会主義的なものに対する期待が主に若者の間で広がっており、今改めてニュート

ラルな視点で資本主義を見つめ直してみようという趣旨で番組を制作した。今後も倫理の問題なども含めて考えるなど、経済現象を経済学の学問の中だけで終わらせない多角的な視点で議論できる番組作りを心がけ、公共放送としての使命を果たしていきたい。

- 興味深く拝見した。1月3日(水)のBS1スペシャル「欲望の資本主義2018～闇の力が目覚める時～」(BS1 後9:00～9:50、10:00～10:49)を偶然見てから、1月5日(金)からの新シリーズを見た。再放送を含めて関連番組を編成することで、次のシリーズの視聴につなげることも多くの人に見てもらうためには大切だと思う。シリーズ6回を通して見て、マイナス金利となっている現代の日本は、資本主義の歴史のなかで、どう位置づけられるのかが分からなかった。経済に詳しくない人でも分かるように、今の日本が見えてくるような番組を期待したい。
- 音楽がとてもうまく使われている番組だと思った。ドラマチックで、視聴者が興味を持続させるのにとっても効果的だった。ドキュメンタリーでは、状況を整理するために使われる音楽は有効だと思うが、感情に訴える音楽を入れると一編の映画を見たような全く違う印象を抱かせてしまうこともある。番組ごとにどういった音楽をどの程度入れるのが効果的か、その選択がおもしろくもあり、難しいと思った。例えば音楽の使い方について、海外のドキュメンタリーと比較した違いも気になった。
- 2016年に「協同組合の思想と実践」がユネスコの無形文化遺産に登録されるなど、特にリーマン・ショック以降、協同組合の考え方が見直されているように感じている。この番組は、その協同組合のあり方についても考えさせられる内容だった。協同組合は利潤を追求しないものだが、その理念は、資本主義にはよい面もあるが悪い面もあるという見方、競争や自由な取引は否定しないが、そこには制御があるべきだという考え方から生まれたものだと思う。この番組を見てキリスト教が最初は利子を禁止していたことを初めて知り、ヨーロッパには協同組合が生まれる文化的な土壌がもともとあったように思った。同時に、資本主義社会を肯定的に捉えながらも、利潤追求が行き過ぎないように歯止めをかけるような役割を、協同組合は果たす必要があるのではないかと考えさせられた。とても勉強になる内容だった。
- タイトルに「経済史」と付いているだけで敬遠してしまい、今回は構えて番組を見たが、音楽や映像、アニメーションが芸術的で引き込まれた。また、「利子が禁断の果実であった」「欲望は増殖することを望む」など、分かりやすく印象的なフ

レーズが随所にちりばめられていたので、視聴者を引きつける演出になっていたと思う。経済に興味がない視聴者にとっても分かりやすく、ドキドキ、わくわくするような発見があり、興味を持つきっかけとなる番組としてよかった。

- 「欲望」というテーマで経済を扱うのはとても興味深く、宗教を含めて文化的に、経済の歴史を見ていくところがおもしろかった。利子だけでなく、為替にも言及しながら、メディチ家がそこから生み出した富で芸術家を支援し、ルネサンスにつながった過程を示していたが、結局文化的な側面が多い印象を受けた。第1回だけ見ると、タイトルの「経済史」にやや疑問を感じた。
- 経済学の巨匠たちの刺激的なことばがおもしろく、今を考えるヒントになる番組だと思った。もともと知的好奇心が強い人を対象にした番組に思えたが、そうでない人にもわかりやすく伝える工夫がもっとあってもよかった。オリンピックなどのスポーツ中継のように、見て楽しめるのがテレビの強みだが、こういった学術的な内容についても映像の強みをうまく使って、テレビが知的活動のために貢献できるということを今後も示してほしい。
- 資本主義という経済システムのあり方そのものに正面から向き合っている点は高く評価したい。格差拡大などさまざまな社会的課題が改めて注目されている今の時代だからこそ、必要な番組だと強く感じた。「欲望」をテーマにしたことで、宗教的な問題も含めて、人がどういう歩みの中で今に至るのか、経済史のみならず、人の歴史そのものを問うような番組になっていたと思う。ただ、知的好奇心を喚起する意味ではよかったが、ことばの説明や切り口にはもう少し工夫があってもよかった。「シリーズ 欲望の経済史 ～日本戦後編～」も始まったが、財政や企業のあり方など、今の時代につながる課題がすべて入っているので、引き続き深く掘り下げた番組を制作してほしい。NHKにしかできないことだと思うので、期待している。
- 「欲望」ということばや資本主義についてネガティブに捉えているような印象も確かにあったが、シリーズを最後まで見たときに、最終回で「物質的な欲求が満たされると、よい生き方とはどんなものか考えられる」というコメントがあった。人間には善悪の二面性がある中で、正しくありたい、正しく見られたいと思うのもまた「欲望」と言えると思う。その意味で、タイトルの「欲望」はとてもポジティブな人間の本質だと感じられた。「利子とは忌むべきもの」から始まり、最後はよい生き方とは何か、生き方を考えることの大切さを伝えて締めくくったこのシリーズは、混とんとした現代において、人間の本質に立ち返ることの重要性を改めて感じ

させてくれた。

<放送番組一般について>

- 1月27日(土)のNHKスペシャル 未解決事件 F i l e . 0 6「赤報隊事件」(総合 後 7:30~8:43)、28日(日)の同番組「赤報隊事件 戦慄の銃弾 知られざる闇」を見た。新聞社の支局が襲撃され、社会に大きな衝撃を与えた赤報隊事件の真相に、ドラマとドキュメンタリーで迫っていた。実録ドラマは、仲間を失った新聞社の同僚たちが事件の真相に迫り、犯人を追い詰めるために懸命に苦闘する姿や、被害者や遺族の無念の思いが迫力ある映像をもって描かれていた。ドキュメンタリーは、NHKの取材力により、独自に入手した極秘資料、容疑者に浮上した関係者へのインタビュー、犯行声明文の解析を通して真相に迫っており、大変見応えがあった。二つの番組を通して、事件の核心に迫ろうとする姿勢が強く伝わってきた。特に、自らの主義・主張に反するものを排除しようという風潮があるなかで、民主主義を守るとはどういうことなのか、報道の自由・言論の自由をどう守るのかという問題を現代に強く問いかける内容で、非常に良かった。
- NHKスペシャル 未解決事件 F i l e . 0 6「赤報隊事件」と「赤報隊事件 戦慄の銃弾 知られざる闇」は、NHKだからこそ制作できる番組で、とても感動した。
- NHKスペシャル 未解決事件 F i l e . 0 6「赤報隊事件」と「赤報隊事件 戦慄の銃弾 知られざる闇」を見て、事件を生々しく思い出した。今の若い人たちは事件のことを知らない人が多いと思う。31年がたち、言論の自由について、主張の異なる他者を受け入れるという点で、社会は何が変わり、何が変わっていないのか、そうした視点がもう少しあるとより強く問題提起するような番組になったのではないか。
- 2月14日(水)のNHKスペシャル「金メダルへの道 “一糸乱れぬ” 挑戦 女子団体パシュート」(総合 後 10:00~10:49)を見た。日本チームの戦略や滑りをわかりやすく伝えていてとても興味深い内容だった。特に、隊列を組んだときに空気抵抗が小さく、隊列が乱れると空気抵抗が大きくなるということを360度カメラなどを活用しながら最先端の分析技術で紹介したのは説得力があり、日本の女子団体パシュートがここまできたのか、ということがよく分かった。

- 1月24日(水)のクローズアップ現代+「どう減らす？犬・猫の殺処分」を見た。6年前の動物愛護法改正を受け、殺処分される犬や猫の数は大幅に減少したが、その陰で自治体の収容施設や動物愛護団体が動物を抱えきれなくなり、深刻な事態が進行している現状が紹介されていた。さまざまな実態を取材し、動物愛護団体や行政担当者の話を聞いていて、とても中身の濃い内容だったが、厳しい実情が分かるだけに、殺処分についてあいまいさが残る問題提起だった。どうしたら動物の殺処分为減らせるのか、視聴者にもっと訴えかけるような内容にしてほしかった。また、殺処分対象だった犬・猫を引き取った人たちの声や、どうすれば動物を引き取れるのかなどについても取り上げてほしかった。これからもさらに問題は深刻化する懸念があるので、引き続き取材を続けてほしい。

- 1月29日(月)のクローズアップ現代+「“ドラレコ”革命～危険な運転を炙(あぶ)り出せ～」は、ドライブレコーダーが捉えた決定的瞬間が、自動車事故の真相究明につながることや、取り付けることで高齢者ドライバーが増えるなか、安全運転の啓もうになることなどが紹介されて大変よかった。番組内でキャスターがドライブレコーダーのことを“ドラレコ”、ゲストは、ドライブレコーダーと言っていた。例えばコンビニエンスストアは“コンビニ”と日常的に使われているが、NHKにおける単語の短縮・略称の基準があれば教えてほしい。

(NHK側)

今回の「クローズアップ現代+」では“ドラレコ”とタイトルにつけている。ドライブレコーダーという単語が長いので短く言ったほうが視聴者にも親しみやすいのではないかと思い、“ドラレコ”を使った。アナウンサーのコメントにおいては、正式なことばと併用していたと思う。

- 2月1日(木)のクローズアップ現代+「思いがけない退去通知 あなたも住宅を追われる!？」は、賃貸住宅の老朽化、取り壊しにより、居住する方が退去を迫られ、生活困窮状態にある高齢者の方々を追い詰め、結果として行き場を失っている深刻な事態を取り上げていた。専門家から日本の住宅政策に関するさまざまな課題が説得力ある形で解説されて大変興味深かった。前日に札幌市で起きた共同住宅の火災について言及していたこともよかったと思う。高齢化の加速、所得環境や家族環境等の変化を考えると、こうした事態がさらに深刻化するのはいまさらだ。番組では、孤立死を防ぐ取り組みを事例として紹介しながら、住宅政策、福祉政策、そして社会保障を一体として考えていく必要性を訴えていたが、むしろ社会保障の中に

住居問題を位置づけるべきだと強く感じた。今後も取材を続けて、課題をより深く掘り下げてほしい。

- 2月3日(土)のE T V特集「長すぎた入院」を見た。福島原発事故で、転院を余儀なくされたことで明らかになった、精神科病院の長期入院患者の内実が伝えられ、大きな衝撃を受けた。父親に「帰ってきたら迷惑だ」と言われた患者本人の悲しい顔や、統合失調症で長期入院していた人が「外の生活は自由でいい」としみじみと言う様子など、社会的入院の現実をしっかりと映像で捉えており、問題の深刻さがよく伝わってきた。社会問題をきちんと記録した、未来に残すべき番組だと思った。
- 2月11日(日)のバリバラ「バリバラ×セサミストリート」では、クラスで孤立していた自閉症の小学生の女の子が、セサミストリーのキャラクターの仲立ちによって、他の子どもたちと距離を縮めることができた様子が放送された。前もって仕組んでできることではないので、貴重な場面がよく撮れていたと思う。「バリバラ」の中でも、ホームラン級の回だった。
- 2月15日(木)のハートネットTV 認知症にやさしいまち(3)「若年性認知症の人が働く子ども食堂」を見た。介護施設が子ども食堂を運営し、そこで若年性認知症の方に働いてもらう取り組みを紹介していた。子どもたちとのふれあいがとても温かく描かれていただけでなく、生きがいを見つけることで、脳も体も活性化することが説明され、多くの若年性認知症の患者とその家族に希望を与える内容だったと思う。他の地域の取り組みの参考になるので、この子ども食堂の運営方法、資金面の課題、展望についてもう少し説明があればなおよかった。

(NHK側)

若年性認知症は身体機能に問題がないため、介護サービス自体が不足している状況にある。本来であれば介護サービスを“受ける”はずの彼らが、福祉の現場でサービスを“提供する”側に回ることは、全国初の試みだった。資金や人材など運営面ではいろいろな課題があり、難しいと聞いている。引き続き取材を続け、番組でも取り上げていきたい。

- 野球はあまり詳しくないのだが、「球辞苑～プロ野球が100倍楽しくなるキーワードたち～」を見て、プロ野球はこんなにもおもしろいのかと思った。野球に関するキーワードについて、いろいろな人がデータとともに分かりやすく説明し、

「だからこの選手は強い」などと結論づけており、今までになかった番組だと思った。プロ野球のオフシーズンだけの番組なので、次回のオフシーズンも楽しみにしている。

- 「大河ファンタジー 精霊の守り人」は、新しい映像技術でファンタジーの世界をあそこまで表現していたことに感心し、もっとファンタジーの番組をみたいと思った。この番組では、ポスターなどを制作して、若年層を狙いたいという話があったと思うが、実際に効果があったのか、そういった検証も報告して審議会の場で議論することで、PDCAサイクルが回るかと思う。

(NHK側)

ポスターをはじめとした、広告媒体でどのぐらい番組の視聴につながるのか検証するのは難しい部分もあるが、今後、方法も含めて検討したい。

- ピョンチャンオリンピックは、放送だけでなく、ホームページも含めていろいろな形で楽しんでいる。オリンピック特設サイトは、放送とは違いコンパクトに動画がまとめられており、電車の中などで見るのにも便利だ。また、スーパーハイビジョン試験放送も映像が鮮明でよいし、フィギュアスケートでジャンプの軌跡をたどり、他の選手と比較する見せ方も新しい試みで興味深い。東京オリンピック・パラリンピックに向けて、最先端の映像技術でも盛り上げてほしい。

(NHK側)

前回、審議会で大河ドラマ「西郷どん」で西郷さんの家のセットの前にクスノキが生えているが、切って持ってきたのではないかという意見を頂いたが、クスノキはすでに切ることが決まっていたものを持ってきた。

NHK編成局
番組審議会事務局